

【事例 16】

～耕作放棄地と老朽化した施設を再生利用してベビーリーフを栽培～

【岐阜県・中津川市】

(1) 経緯

- (株)ナチュラルプランツは岐阜県中津川市に拠点をもち農業生産法人。代表取締役専務の日置氏は農業関係の会社に勤務していたが、自ら農業経営を行いたいとの希望をもち平成17年に同社を立ち上げた。
- 同社ではスプラウトやしいたけなどの栽培を行っている。
- 初期投資を抑えるため、耐用年数の残っている中古のハウスを活用したいと考え、農業委員会、JA等に相談するとともに、自らも物件を探した。現在の農地は自ら見つけて、農業委員会を通じて土地所有者との利用調整を行ってもらったもの。

(2) 取組の状況

① 農地の整備等

- 当該農地にはトマト栽培用に建設された3棟続きのハウスが建っており、敷地面積は20a。骨組みは残るものの被覆材はほとんど無く、ハウス内外に雑草が繁茂している状況であった。
- 耕作放棄地再生利用緊急対策を活用して、農地の再生、ハウスの修繕（骨組みは活かして有効活用）等を行った。

【再生前】



ハウス外観



ハウス内部

【再生後】



②経営の状況

- 年間を通じて約10種類程度のベビーリーフが作付けされており、収穫作業はパート2名で毎日4時間程度かけて行っている。
- 作付け前から納品先を確保し納品開始日も事前に決定するなど、商品としての農作物の販路確保をしっかりと行っており、安定的に経営を行う努力がされている。